

## 研究の概要

# 研究の概要

## 1. 目的

近年、コンピュータ等の情報機器開発の進展やインターネット等の急速な普及に伴い、障害児・者をとりまく社会環境は、いわゆる高度情報化の傾向を示しており、このような社会の変化への対応が教育に求められている。

また、従来から特殊教育の分野では、情報手段は、障害のある児童生徒の学習を支援する道具として、あるいは、情報の収集・交換・活用によって生活の質を高めるための道具として、さらに、自立と社会参加を支援する道具として、その有効性が期待されてきた。

そして、平成14年度から実施される新学習指導要領では、コンピュータ等を使った情報教育の拡充が図られることとなっている。

このような状況にあって、障害のある児童生徒の教育においては、コンピュータ等を利用した情報教育ではどのような指導内容を設定していく必要があるか、また、児童生徒の障害の状態に応じてどのような指導上の配慮が必要であるかということを確認していくことが求められていると考えられる。

このような認識を踏まえて、本プロジェクト研究では、盲・聾・養護学校におけるコンピュータ等を利用した情報教育の取り組みの現状はどのようなものであるか、また、盲・聾・養護学校においては情報教育に関してどのような課題があり、今後の情報教育の充実のためにどのような取り組みが必要かということを検討することを目的としている。

## 2. 方法

本プロジェクト研究は、平成10年度から平成13年度までの4か年計画で実施された。

本プロジェクト研究では、次の4つの側面からのアプローチを行っている。

- ① 情報教育に関する調査研究
- ② 盲・聾・養護学校で情報教育を進める上での配慮点と課題の検討
- ③ 情報教育に関する学校事例の検討
- ④ 情報教育に関する課題別の検討

まず、①の情報教育に関する調査研究としては、次の調査が行われた。

- a. 特殊教育諸学校における情報教育の実施状況に関する調査
- b. 特殊教育センター等における情報教育に関連した取り組みに関する調査

a.の「特殊教育諸学校における情報教育の実施状況に関する調査」は、全国の盲・聾・養護学校983校を対象として、郵送による質問紙調査法で実施された。調査時期は、平成11年3月であった。また、b.の「特殊教育センター等における情報教育に関連した取り組みに関する調査」は、全国の特殊教育センター等59機関を対象として、郵送による質問紙調査法で実施された。調査時期は、平成12年1月であった。

②の盲・聾・養護学校で情報教育を進める上での配慮点と課題については、研究協力者及び研究協力機関の協力を得て、各学校種別における検討が行われた。

③の情報教育に関する学校事例については、情報教育に関して先進的な取り組みを行っている学校について訪問調査によって資料を収集し、各学校の取り組み状況及び今後の課題の検討を行った。

④の課題別の検討としては、次のような研究が行われた。

- a. 情報教育のカリキュラム開発を支援するデータベースの試作研究
- b. 重度の障害のある児童生徒の教育における情報教育の在り方の検討
- c. コンピュータ等を利用した授業における実践上の課題の検討
- d. 情報教育における授業の評価についての検討

まず、a.では、盲・聾・養護学校において情報教育のカリキュラムを作成する際に参考にすることのできるデータベースの試作の取り組みが行われた。また、b.では、重度の障害を有する児童生徒の教育において情報教育をどのように捉え、実施していけばよいのかということについて検討が行われた。また、c.では、実際にコンピュータ等を利用した授業を行う際にどのような実践的な課題があるかということについて検討が行われた。さらに、d.では、情報教育に関する授業評価の試案についての検討が行われた。

## 3. 経緯

### (1) 平成10年度

平成10年度においては、まず、本プロジェクト研究に関する文献の収集及び検討が行われた。

また、「特殊教育諸学校における情報教育の実施状況に関する調査」の質問項目について検討を行い、調査票を作成した(資料1)。そして、この調査票を全国の盲・聾・養護学校に郵送し、質問紙調査を実施した。

### (2) 平成11年度

平成10年度に実施した「特殊教育諸学校における情報教育

の実施状況に関する調査」の回答の集計及び分析を行った。これらの集計結果については、資料としてまとめ、盲・聾・養護学校に送付した。

また、「特殊教育センター等における情報教育に関連した取り組みに関する調査」の質問項目について検討を行い、調査票を作成した（資料2）。そして、この調査票を全国の特殊教育センター等に郵送し、質問紙調査を実施した。

盲・聾・養護学校における情報教育に関する課題については、研究協議会を開催し、研究協力者との協議を行った。

情報教育に関する学校事例については、情報教育に関して先進的な取り組みを行っている学校について訪問調査による資料の収集が行われた。

課題別研究については、所内研究分担者及び研究協力者によって、各テーマごとに研究が行われた。

### (3) 平成12年度

平成11年度に実施した「特殊教育センター等における情報教育に関連した取り組みに関する調査」の回答の集計及び分析を行った。集計結果については、資料としてまとめ、全国の特殊教育センター等に送付した。

また、上述の「特殊教育諸学校における情報教育の実施状況に関する調査」の回答の一部として得られた盲・聾・養護学校におけるコンピュータ等を利用した指導の実践例について、資料集としてまとめ、発行した。

さらに、盲・聾・養護学校における情報教育に関する課題については、研究協議会を開催し、各学校種別の抱える課題について、研究協力者との意見交換を行った。

情報教育に関する学校事例については、前年度に引き続き、情報教育に関して先進的な取り組みを行っている学校について訪問調査による資料の収集が行われた。

課題別研究については、引き続き所内研究分担者及び研究協力者によって、各テーマごとに研究が行われた。

### (4) 平成13年度

平成13年度は、前年度に引き続き、盲・聾・養護学校における情報教育に関する課題の検討、情報教育に関する学校事例の検討、及び課題別研究が行われた。

そして、上述の平成10年度から平成13年度までの研究の成果をまとめ、研究報告書を作成した。

## 4. 研究報告書の構成

本研究報告書は、大きく6つの部分から成っている。

第一の部分では、この研究の目的、方法、経緯、及び、報告書の構成について述べている。

第二の部分では、このプロジェクト研究の一環として行われた調査研究の結果について報告が行われている。

第三の部分では、盲・聾・養護学校の各学校種別における情報教育を進める上での配慮点と課題についての検討の結果が報告されている。

第四の部分では、このプロジェクト研究の一環として収集された情報教育に関する学校事例が報告されている。ここでは、情報教育に関する学校事例として訪問調査による学校事例調査の結果が報告されている。また、国立久里浜養護学校における取り組みの事例について報告が行われている。

第五の部分では、情報教育に関する課題別の研究報告が行われている。ここでは、情報教育に関するカリキュラム開発を支援するデータベースの構築の試み、重度の障害のある児童生徒の教育における情報教育の在り方、コンピュータ等を利用した授業における実践的課題、情報教育に関する授業の評価についての報告が行われている。

最後の「資料」の部分では、調査研究で使用された調査票が収録されている。

(文責：渡邊 章)

